

2017 学校案内



誰もが未来を

創る能力(ちから)

がある



さどく ゆたかにたくましく
宮城県多賀城高等学校

－ 知性の伸長(さとく) －



21世紀を担う人物の育成という観点に立ち、「さとく ゆたかに たくましく」という教育目標のもと、高い知性と広い視野を持つ生徒を育てます。

授業第一主義をモットーに、大学受験に対応した授業をおこなっています。さらに課題を主体的に見つけ、解決していく能力を育てるために、教科横断的な学び・発展的キャリア教育の充実・ICT教育の充実・課題研究・探究的な学習・アクティブラーニングなどを行っています。

また東日本大震災以降、さまざまな観点から防災教育を行ってきたことを踏まえ、本校ならではのESD(持続可能な開発のための教育)に取り組んでいます。

－ 人格の尊重(ゆたかに) －



正しく自己を愛し、他をも愛する豊かな情操を育み、広い視野で社会に貢献・奉仕できる誠実な人物を育成します。その一環として、様々な発表・発信の場への参加や各種ボランティアへの参加といった、校外活動への参加も奨励しています。

学校行事においても、多くの場面で生徒に活躍の場が与えられています。

— 心身の健康(たくましく) —



心身の健康こそがすべての生活の根元であると考え、清潔で健康的な生活を心がけ、進んで心身を鍛え、明るく清く、どのような困難にあってもくじけない強固な意志力と強靱な体力を身につける生徒を育てます。

また自主的・計画的な部活動を通し、文武両立を志します。

平成30年度入学生用教育課程表

●普通科の3年間で学ぶ教科・科目(緑色が学校設定科目)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
3年	文	現代文B	古典B	世界史B	日本史B	地理B	政治・経済	体育	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅱ	現代文A	古典B	倫理	時事問題研究	英語会話	総合的な学習の時間	LHR																		
	理	現代文B	古典B	地理B	数学Ⅱ	数学B	物	理	化学	体育	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅱ	くらしと安全A	総合的な学習の時間	LHR																				
2年	文	現代文B	古典B	日本史B	世界史A	地理B	世界史A	日本史A	数学Ⅱ	数学B	生物基礎	体育	情報と安全	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅱ	くらしと安全A	総合的な学習の時間	LHR																	
	理	現代文B	古典B	地理A	世界史A	数学Ⅱ	数学B	化学基礎	生物基礎	体育	情報と安全	コミュニケーション英語Ⅱ	英語表現Ⅱ	くらしと安全A	総合的な学習の時間	LHR																			
1年	国語総合	現代社会	数学Ⅰ	数学A	化学基礎	地学基礎	体育	情報と安全	音楽Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	くらしと安全A	総合的な学習の時間	LHR																					

※選択アプローチⅠ・Ⅱ(Ⅰアプローチ生物②+アプローチ化学②、Ⅱアプローチ生物②+アプローチ化学②)
 ※通年で学校設定科目「ボランティア」1単位を設置(承認された生徒のみ)

●災害科学科の3年間で学ぶ教科・科目(黄色が学校設定科目)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33		
3年	現代文B	古典B	政治経済	倫理と国際社会	数学Ⅲ	化学	物理	科学技術と災害	体育	コミュニケーション英語Ⅲ	くらしと安全B	課題研究	HR																						
	現代文B	古典B	世界史A	数学Ⅱ	数学B	美術Ⅰ	自然科学と災害B	物理	化学	体育	コミュニケーション英語Ⅱ	科学英語	くらしと安全A	情報と災害	課題研究	HR																			
1年	国語総合	社会と災害	数学Ⅰ	数学A	自然科学と災害A	自然科学と災害B	実用統計学	体育	コミュニケーション英語Ⅰ	英語表現Ⅰ	くらしと安全A	情報と災害	課題研究	HR																					

※通年で学校設定科目「ボランティア」1単位を設置(承認された生徒のみ)

多賀城高等学校のESDと3つのプログラム

多賀城高校では、東日本大震災での被災経験を基にしたさまざまな活動をとあして生徒一人ひとりの防災意識を高め、科学的な視点から防災・減災を考える教育が行われています。これは本校の特徴的なESD(持続可能な開発のための教育)であり、「防災学習」「自然科学学習」「国際理解学習」の3つのプログラムを柱として行われます。これまで取り組んできた大学や研究機関と連携した本校の活動が評価され、平成29年2月にユネスコスクールへ正式に採択されました。

多賀城高等学校におけるESDの概念図



防災学習プログラム

防災・減災の基本知識を身に付けつつ、自然環境と人間社会の有り様を考え、防災および減災に強い社会づくりを発信する。

自然科学学習プログラム

実験や実習、フィールドワークをとあし、自然災害について科学的視野から調べ、自然科学の原理や自然環境の多様性について理解する。

国際理解学習プログラム

世界の災害を調べたり、東日本大震災の被災と復興の様子を海外にも発信したりすることで、防災・減災についての情報や取組を共有する。



多賀城高等学校の特徴ある教育活動

アカデミックインターンシップ

大学での研究活動について自身の興味に応じたテーマを選択し、体験するための行事です。

平成29年度は宮城大学・東北大学・山形大学・岩手大学で開催する予定です。



ICT教育

授業や校外実習、課外活動や学校行事など高校生活におけるさまざまな場面でiPadを活用しています。iPadは宮城教育大学から40台貸与されているほか、災害科学科の生徒は各自1台ずつ購入します。



課題研究

教科を越えた様々な社会の課題に向き合い、情報を集積・分析して、その課題を解決するための力を育みます。普通科では「総合的な学習の時間」、災害科学科では「課題研究」の時間に行います。



アクティブラーニング

「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」に重きを置き、「受身」の学習から「能動」の学習への転換を図っています。



進路達成に向けて

昼休みや放課後の面談、自習室「学び処」の設置、学習合宿の実施や「夢ナビライブ」(高校生のための大学研究と学問発見を目的とした最大規模の合同進学ガイダンス)への参加、アカデミックインターンシップなど、生徒一人ひとりの進路希望の達成に向けて学習環境を整えています。



面接指導



学習合宿



進路室にて

過去5年間の入試結果(進学) (合格者延べ数、過卒生を含む)

学校	年度	H 24					H 25					H 26					H 27					H 28					
		H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	
国立大学・大学校	東京大学	1	1	7	3	1																					
	京都大学	5	3	7	3	1																					
	大阪大学	12	7	9	9	9																					
	名古屋大学	1	1																								
	北海道大学	1																									
	東北大学	1	5	7	4	4																					
	筑波大学	1	4	1	1	1																					
	新潟大学	1	1	1	1	1																					
	金沢大学	1	1	1	1	1																					
	富山大学	1	1	1	1	1																					
	石川県立大学	1	1	1	1	1																					
	福井県立大学	1	1	1	1	1																					
	岐阜県立大学	1	1	1	1	1																					
	静岡県立大学	1	1	1	1	1																					
	愛知県立大学	1	1	1	1	1																					
	名古屋市立大学	1	1	1	1	1																					
	岐阜大学	1	1	1	1	1																					
	愛知県立大学	1	1	1	1	1																					
	岐阜県立大学	1	1	1	1	1																					
	愛知県立大学	1	1	1	1	1																					
	岐阜県立大学	1	1	1	1	1																					
	愛知県立大学	1	1	1	1	1																					
	岐阜県立大学	1	1	1	1	1																					
	愛知県立大学	1	1	1	1	1																					
	岐阜県立大学	1	1	1	1	1																					
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1																						
岐阜県立大学	1	1	1	1	1																						
愛知県立大学	1	1	1	1	1					</																	

発表・発信・交流



安倍晋三総理大臣と復興フォーラムにて

自らが学んだ成果を発表し、様々な人々との交流を通じて課題を見つけ、新たな学びにつなげます。

平成28年度に参加したイベントのいくつかを紹介します。



ハイスクール世界サミットin福島
STAND UP SUMMIT 2016
HLABサマースクール
ユネスコスクール・コンソーシアム
新しい東北フォーラム
世界津波サミット など

東日本大震災 メモリアル day

東日本大震災で人間が向き合った防災・減災を東北だけでなく世界に伝承していくために、本校ではさまざまな取り組みを行っています。その趣旨に賛同する全国の高等学校・中学校が一堂に会して交流し、互いの課題研究の成果発表を行いました。



東日本大震災メモリアルday

生徒会の交流

県外の高校生徒会との交流も活発に行われます。平成28年度は、神戸大学附属中等教育学校・鹿児島女子高等学校・新潟県立見附高等学校・岩手県立宮古工業高等学校・新潟県立新潟県央工業高等学校・桜美林高等学校の皆さんが来校しました。



桜美林高等学校との交流

各種 ボランティア活動

多賀城高校では、有志・個人・部活動単位で様々なボランティア活動が活発に行われています。ボランティア活動は単位としても認められています。またインターアクトクラブにも参加しています。

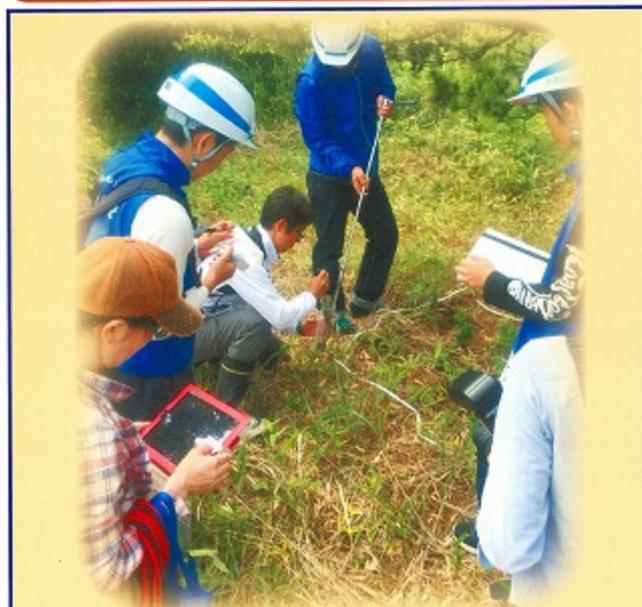


千年希望の丘植樹

災害科学科の学び

平成28年より始まった多賀城高等学校災害科学科は、「命と暮らしを守る」地球未来の創造者を育てます。「誰にでも未来を創る能力(ちから)がある」のスローガンのもと、普通科とは異なる特色ある学びが用意されています。

何を学ぶのか？



普通科の学習内容を防災・減災・環境などの切り口で学びます。

理科を中心として、地理歴史・公民、保健、家庭、数学、英語の内容を含む専門科目が配置されます。

専門科目では過去の災害や環境から見出される諸課題を学習題材とするなど、自然科学的なアプローチや人間社会学的視点を養う学習まで幅広い内容を扱います。普通科での学習内容を組み替えたり発展的な内容を扱うため、より深い学びにつながります。

卒業後の進路は？

災害科学科の見据える将来像は「高校段階で学んだことを基礎・基本として、上級学校で専門分野をより深く学習しさらに研究を進め、その内容を活かすことができる」ことです。そのため災害科学科は大学・大学校(気象大学校・防衛大学校・海上保安大学校)・短大などへ進学し、専門分野での研究を深めることを目標としています。

〈災害科学科での学び〉

自然環境や災害への備え・医療看護・都市計画学・社会工学・心理学などへつながる学習

〈大学・大学校等への進学〉

専門分野における学びのさらなる深化を図る

〈各分野の研究者等〉

医療、建築・設計、都市計画などの技術者、研究者、専門職・公務員など、各分野でのスペシャリストとして活躍

災害科学科の連携・協力機関

災害科学科では多くの大学・研究機関・協力機関と連携した学習を実施します。

【大 学】 東京大学・東北大学・宮城大学・宮城教育大学・岩手大学・奈良大学・東北学院大学・東北工業大学など

【研究機関・協力機関】

防災科学技術研究所(NIED)・宇宙航空研究開発機構(JAXA)・海洋研究開発機構(JAMSTEC)・産業総合研究所地質標本館(AIST)・海上保安庁第二管区海上保安部・国立国会図書館(NDL)・国土交通省東北整備局・宮城県図書館・仙台管区気象台など

研究の第一線で活躍する外部講師による特別授業



災害科学科は常日頃から数多くの外部講師による授業が行われています。宇宙航空研究開発機構(JAXA)研究員による授業、海洋研究開発機構(JAMSTEC)研究員による授業・巡検、制御システム研究組合(CSSC)研究員による情報セキュリティ実習、東北大学・奈良大学・東北工業大学の教員による授業などがあります。

巡 検・実 習

災害科学科の野外実習については、1年で浦戸巡検、2年で栗駒巡検を実施します。

その他、1年では日本を代表する研究機関で研修を行う「つくば実習」を1泊2日で実施します。JAXAでの人工衛星画像処理実習や、防災科学技術研究所(NIED)、産業技術総合研究所(AIST)等で最先端の科学に対する知見を深めます。

また、本校はJAXAと「人工衛星画像の教育利用」に関する共同研究を行っており、JAXAつくばキャンパスにおいて、教科「情報と災害」の発展的な学習として、実際の人工衛星画像を使った実習を行い、植生分布や災害対策への応用を学びます。

課 題 研 究

個人やグループで防災・災害について独自のテーマ課題を設定し、その課題を解決するための研究活動を行います。

研究活動では課題設定、文献調査、データ処理、発表までの流れについて、また研究者の集う学会等での発表も見据え、研究者から直接指導・助言をいただきます。

これまでも、地球惑星科学連合同大会、つくば Science Edge、HOKKAIDO サイエンスフェスティバル、宮城県高等学校理数科課題研究発表会、宮城県高等学校理科研究会生徒理科発表会などで発表を行っています。



「災害科学科」が目指す教育

国際的視野

さらなる高度な学問を体系的に学び、地球規模の課題に対して先駆的な立場で国際的に活躍できる人材を育成します。

高い志と能力

夢や理想を実現しようとする高い志と柔軟な発想力、探究心あふれる科学的実践能力と高い行動力を育成します。

リーダーシップ

コミュニケーション能力に富み、情報を迅速かつ正確に処理・発信し、的確な判断・決断ができる能力を育成します。

多彩な学校設定科目

● 災害科学科独自の教科・科目

災害科学科では「自然災害や自然環境と人間生活との関わり」「科学技術が人間生活に果たしてきた役割」などを考える専門科目を学習します。

社会と災害（1年）

「地理A」を中心に、地域の文化や災害の起きやすい地形、災害につながる気候の基礎知識を学びます。宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携した衛星画像によるリモートセンシング(対象を遠隔から測定する手段)に関する授業も大きな特徴です。

実用統計学（1年）

統計の基本的な考えを理解し、社会や人間に関わる様々な具体的なことから取り上げながら、分析とデータの定量的取り扱いを学びます。

自然科学と災害A（1年）

化学基礎・生物基礎を基本とした教科で、科学技術の根幹をなす化学分野や生態系を解釈していく上で欠かせない生物分野の基礎を学びます。

科学英語（2年）

科学で使用される英語を通して、学習した内容を英語で他者にわかりやすく伝える方法を学びます。科学的な事象に関して、英語によるプレゼンテーションや英語でレポートを作成する方法を学習します。

自然科学と災害B（1年・2年）

物理基礎・地学基礎を基本とした教科で、災害を切り口として野外巡検の内容まで取り扱うなど、応用的な内容にも踏み込みます。

くらしと安全B（3年）

報道・医療・行政等から講師を招き、災害対応についての知見を深め、課題を解決する方法を学びます。

倫理と国際社会（3年）

災害時の倫理や国際社会での課題について学習するとともに、科学倫理、環境倫理、生命倫理、国際政治経済などを含め、現代社会の抱える課題について学びます。

科学技術と災害（3年選択）

防災、減災のために研究開発されている物理的内容や化学的内容について学習します。

生命環境学（3年選択）

生物学、化学、地球学の分野から生命を取り巻く環境について学習します。

くらしと安全 A (1年)

「家庭基礎」と「保健」の学習内容をカバーし、特に安全な生活を送るための家庭や地域の生活課題や災害時の衣食住のあり方、自然環境と人間生活との関わりについて学びます。課題を主体的に解決する基礎も学びます。

情報と災害 (1年・2年)

「社会と情報」の基礎的事項と「情報の科学」の一部の内容を学ぶとともに、災害時の情報活用能力を学習します。スマートフォンやインターネットの存在が日常化した現在の情報社会を支える基本技術、デジタル処理の応用例なども学びます。

iPad を使った one to one による新しい学び

自ら課題と答えを見出し、次の課題を見つけていく思考力を養成するため、iPadを学習活動に積極的に利用します。入学と同時に災害科学科生は全員がiPadを教科書と同様に所持します。学習道具として自宅に持ち帰り、学習教材として学校のみならず校外でも検索やレポート作成などに利用しています。

校舎内でのWi-Fi環境も整備しています。

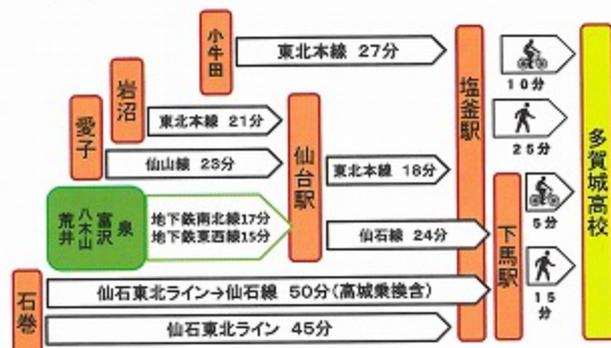


積極的に発信ができるようになるために

学んだことを発信する力こそ、「命とくらしを守る」ことへとつながる基本的な力です。災害科学科では、課題研究基礎・課題研究や各授業の中でiPadを活用した発表を取り入れ、さらには各研究発表・学会におけるポスターセッションで積極的に成果を発表しています。



入試日程：前期選抜／平成30年1月31日(水)
 合格発表／平成30年2月8日(木)
 後期選抜／平成30年3月6日(火)
 合格発表／平成30年3月14日(水)
 オープンスクール／平成29年7月8日(土)
 文化祭一般公開日／平成29年9月2日(土)
 災害科学科説明会／平成29年10月7日(土)



宮城県多賀城高等学校

〒985-0831 宮城県多賀城市笠神二丁目17番1号
 TEL 022-366-1225 FAX 022-366-1226
<http://www.tagajo-hs.myswan.ne.jp>
 E-mail : chief@tagajo-hs.myswan.ne.jp